

## 平成28年度の取り組みとスケジュールについて

### 1 介護現場での作業分析 【7～9月】

実際の現場で行われている介護作業の状況を把握し、介護職員の心身の負担の把握や介護ロボット等の導入の可能性を探る。

- ・現場に入る前の準備作業（介護における作業の抽出）（7月中旬）
- ・入居者、家族への説明会の開催（7月下旬）
- ・介護職員等との意見交換の実施（7月下旬～8月初旬）
- ・介護作業の作業イメージの構築（8月初旬）
- ・現場における作業内容の確認（8月上旬）
- ・本調査：目視による介護作業の全体の流れの把握（8～9月）
- ・本調査：センサー等を活用した作業時間や身体的負担の計測（8～9月）
- ・介護職員が行うべき作業、介護ロボット等が補助できる作業の分類（本調査後）  
など

### 2 共同生活室での介護ロボット等の導入【国家戦略特区事業】 【10～11月】

ユニット型特別養護老人ホームの共同生活室については、介護職員や入居者などの意見を聞きながら、介護ロボット等を導入し、その効果を検証する。

- ・介護ロボット等の導入実証（10～11月）
- ・入居者のADLなどのチェック（ロボットの導入前後）
- ・介護ロボット導入前後に入居者等へのアンケートの実施（ロボットの導入前後）

### 3 分析・評価 【12～3月】

介護現場の意見要望、作業分析と介護ロボット導入実証を踏まえて、分析・評価を行う。

- ・作業分析を通じて得られたデータ等を参考に、介護現場に導入可能な介護ロボット等を検討（12月）
- ・共同生活室での実証結果や介護職員等の意見を開発側に提案し、今後の介護ロボット等の開発・改良につなげる。（12月）
- ・介護ロボット等を活用した介護現場の新しい働き方を検討（1～2月）
- ・介護ロボット等を活用する上で施設の構造・設備に課題がないかを検討（1～2月）
- ・介護作業における「ノーリフト」（人力のみで入居者を持ち上げることを避ける）の検討（2～3月）

※介護ロボット等の開発・改良については、介護ロボット開発コンソーシアムにおいて実施する。